

【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名 原 田 隆 之

本研究は、近年関心が高まりつつある性的アディクションに対して、特にわが国特有の病態といえる窃触障害（痴漢）や窃視障害（盗撮）等を対象として、リスクアセスメント・ツールおよび認知行動療法的治療プログラムを開発し、社会内のクリニックにおいて臨床試験を実施し、その効果を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 世界中で最も広く用いられている性犯罪者リスクアセスメント・ツールである **Static-99** の日本語版を開発し、首都圏の精神科クリニックにおいて治療を受けている 167 人の性的アディクション犯罪（痴漢、盗撮等）を行った男性を対象に、その信頼性および妥当性を検討した。その結果、信頼性については、**Cronbach's $\alpha=0.88$** が得られ、十分な値が示された。予測的妥当性については、高リスク、低・中リスク、中・高リスク、高リスクの 4 群において、1 年後再犯率に有意差が見られ ($\chi^2(3)=14.43$, $p<0.01$)、残差分析の結果、高リスク群の再犯率が有意に高く、低リスク群の再犯率が有意に低いことが示された。さらに、**AUC=0.77 (95%CI=0.63-0.89)** と十分な値が得られた。
2. このように、十分な妥当性を有するツールが開発されたといえるが、これまでもっぱら西洋諸国で妥当性が検証されてきたリスクアセスメント・ツールが、わが国でも同様に適用可能であることが示されたことによって、文化的・社会的背景が異なっても、さらには性犯罪の態様が異なっても、同様のリスク因子によって将来の再犯が予測できることが示された。
3. 治療においては、先行研究のエビデンスに基づき、認知行動療法、中でもアディクション治療に特化した治療アプローチであるリラプス・プリベンション・モデルによる治療プログラムを開発した。プログラムは、1)性的問題行動のハイリスク状況の同定、2)ハイリスク状況へのコーピング訓練を主な治療要素とし、ほかにも生活スケジュールの策定、自己モニタリング、渴望コーピングなどから構成された。
4. 上記プログラムを用いて、首都圏の精神科クリニックにおいて性的アディクションの男性 58 名に対して、1 群前後比較試験によるパイロット臨床試験を実施した。途中で 32 名が脱落するなどしたが、残り 26 名（平均年齢 39.9 ± 9.0 歳）のデータを解析したところ、治療期間中に 2 名（7.6%）、治療後 6 か月のフォローアップ期間に 1 人（3.8%）がリラプスを報告した。治療前後の心理的変数を比較したところ、コーピングスキル

が有意に上昇したことが示された ($t(25)=2.58$, $p<0.01$, $d=0.72$, $95\%CI=0.14$ to 1.29)。治療プログラムが最も重要な標的としていたコーピングスキルの改善が見られたことから、一定の治療効果が示された。

5. パイロット試験の結果、脱落が大きいことがわかったことから、セッション実施時間の短縮、動機づけ強化療法の援用などの改良を加え、男性 137 名の性的アディクション患者を対象にして、参加者を登録順に治療群に割り振り、残りはウェイトリングリスト・コントロールとしたうえで、非ランダム化比較試験を実施した。その結果、リラプス率に有意差はなかったが ($p=0.68$, $OR=1.02$, $95\%CI=0.14$ to 7.42)、治療出席数は治療群が有意に多く ($t(118)=5.84$, $p<0.01$, $d=1.00$, $95\%CI=0.64$ to 1.36)、コーピングスキルにおいて群・時間の有意な交互作用が見られ ($F(1,77)=8.93$, $p<0.01$)、Bonferroni 法による多重比較の結果、治療群のスコアが治療後において有意に上昇したことが示された。

以上、本論文は痴漢や盗撮などの性的アディクションを対象とした世界で初めての臨床試験であり、わが国で初めてのコミュニティ内における性的アディクション治療の臨床試験である。わが国の文化・社会的影響を受けた性的アディクションに対するアセスメントや治療プログラムを開発し、その効果を検討することによって、多様な性的アディクションに対する理解を深めることに重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。